

淀川水系河川整備計画の概要及び 中上流部の河川改修の進捗状況

近畿地方整備局
平成31年1月

淀川水系河川整備計画の概要

淀川水系河川整備計画

- ・淀川水系河川整備計画は、住民、学識者、府県知事の意見を聴取し、平成21年3月に策定。
- ・河川整備計画では、概ね30年間の河川整備の目標と具体的な対策を記載。

①人と川とのつながり

目標:より健全な川とするとともに、災害時に適切な行動をとってもらい、また川を介して上下流の交流を深めていくため、多くの人々が川への関心を高め、川にふれ、川のことをともに考えるような関係を構築する。

- ・関心を持ってもらうためにふれやすい川にする
- ・川の情報発信する
- ・関心を持ってもらうための工夫

②河川環境

目標:「生態系が健全であってこそ人は持続的に生存し、活動できる」との考え方のもと、イタセンパラ等の貴重種、固有種を始めとする多様な生物の生息・生育・繁殖環境の保全や再生を生態系への影響を見ながら実施する。

- ・水辺や河原の保全・再生
- ・川本来のダイナミズムの再生

③治水・防災

目標:いかなる洪水に対しても氾濫被害をできる限り最小化する施策をハード、ソフトの両面にわたって推進する。
この際、「一部地域の犠牲を前提としてその他の地域の安全が確保されるものではなく、流域全体の安全度の向上を図ることが必要」との考えを基本に流域が一体となって対策を講じる。

- ・川の中で洪水を安全に流す
- ・堤防強化
- ・危機管理体制の構築、強化

④利水

目標:近年の人口減少現象や河川環境との調和を考え効率的な水利用を図るとともに、地球規模の気候変動に伴う渇水のおそれに対する備えを実施する。

- ・適正な水利用を図る
- ・渇水に備える

⑤利用

目標:都市を流れる河川であることを踏まえ、身近な自然を楽しめるなど、川とまちが一体となった河川整備を実施する。

- ・舟運の活性化
- ・近づきやすい川、楽しめる川にする
- ・まちづくり、地域づくりと連携

⑥維持管理

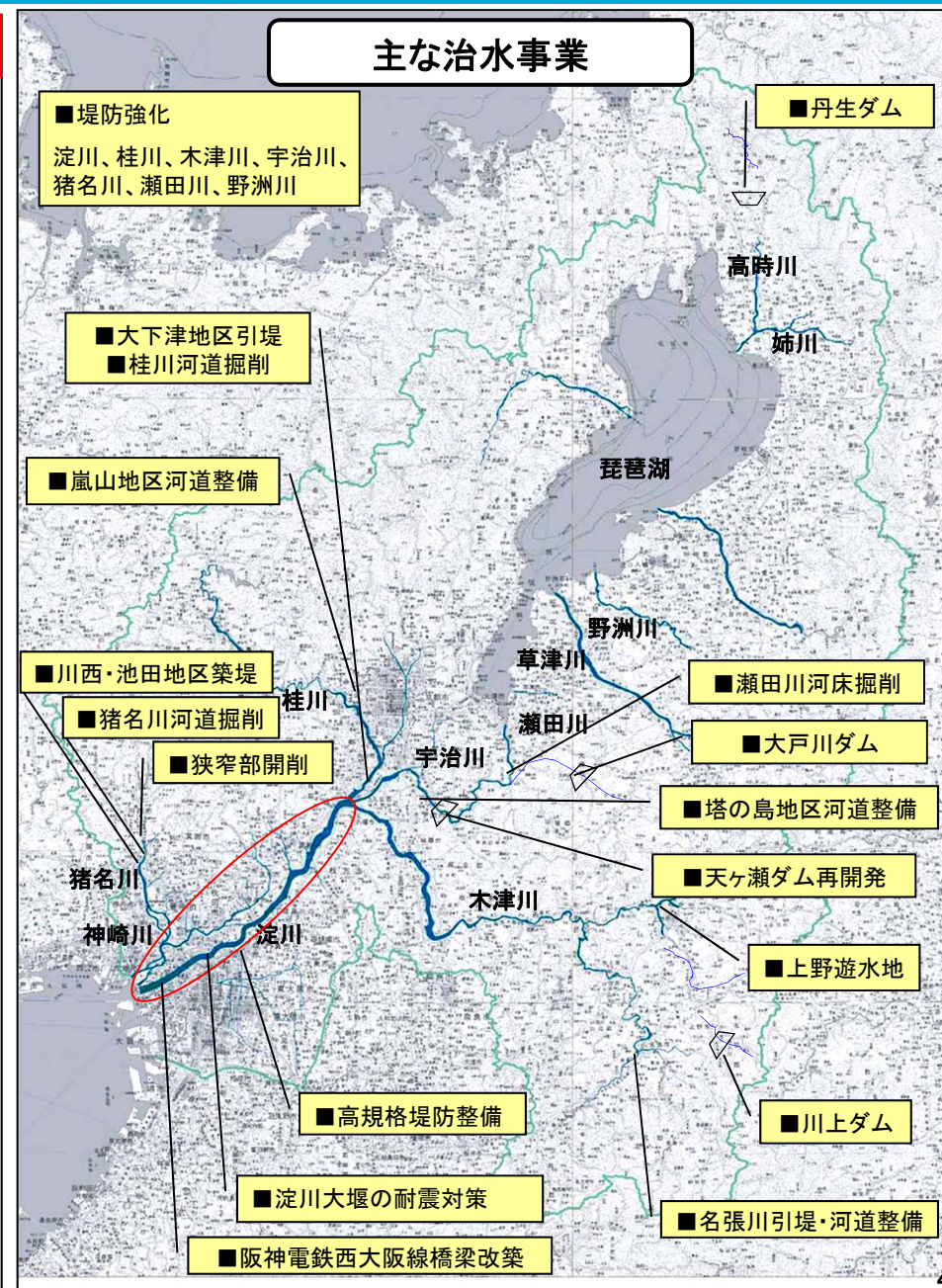
目標:既存施設の老朽化を踏まえ、ライフサイクルコストの縮減を念頭に効率的、効果的な維持管理、更新を計画的に実施する。

淀川水系河川整備計画に記載の治水事業

川の中で安全に流下させるために実施するメニュー

- ・淀川本川については、洪水の流下を阻害している阪神電鉄西大阪線橋梁の改築事業を完成させる。また中・上流部の河川改修の進捗と整合を取りながら洪水調節施設(川上ダム、天ヶ瀬ダム再開発、大戸川ダム)を順次整備する。なお、大戸川ダムの本体工事については中・上流部の河川改修の進捗状況とその影響を検証しながら実施時期を検討する。
- ・宇治川においては、塔の島地区における河道整備及び天ヶ瀬ダム再開発事業による天ヶ瀬ダムの放流能力の増強を行う。
- ・桂川においては、大下津地区において継続して引堤を実施するほか、淀川本川の治水安全度を低下させず、段階的かつ早急に大下津地区並びにその上流区間において河道掘削を実施する。
- ・木津川においては、上野遊水地と川上ダムを完成させるとともに、上野地区の河川改修及び島ヶ原地区の築堤等を実施する。
- ・神崎川、猪名川においては、川西・池田地区における築堤・護岸及び河道掘削を実施し、それが完了次第、下流の治水安全度を低下させない範囲で狭窄部の開削を実施する。

※阪神西大阪線は現在「阪神なんば線」に改名



淀川水系河川整備計画に記載の治水事業

- ・河川整備計画本文では「実施については、上下流の河川整備の進捗状況、水害の発生状況及び国・自治体の財政状況などを考慮しながら優先順位を定め実施すべき事業を行うものとする。」と記載。
- ・河川整備計画策定時には、「現状を踏まえて緊急的に着手(継続)すべき事業等」と「上下流の河川整備進捗や水害の発生状況、国・自治体の財政状況などを考慮しながら計画的に実施すべき事業」にわけて説明。

現状を踏まえて
緊急的に着手(継続)すべき事業等

【水系全体】

危機管理体制の構築、堤防強化

【淀川本川】

阪神電鉄西大阪線淀川橋梁架替

【宇治川】

塔の島河道掘削、天ヶ瀬ダム再開発

【木津川】

上野遊水地、川上ダム、名張川河道掘削

【桂川】*詳細は次頁

大下津地区引堤、下流部の低水路内掘削

【猪名川】

河道掘削

上下流の河川整備進捗や水害の発生状況、国・自治体の財政状況などを考慮しながら計画的に実施すべき事業

【淀川本川】

水無瀬地区等の河川敷切り下げ

【木津川】

上野地区河道掘削

【桂川】

河道掘削

【瀬田川】

瀬田川河道掘削

【大戸川】

大戸川ダム

中上流部の河川改修の進捗状況

事業進捗状況(宇治川)

- ・宇治川では、整備計画に位置付けた堤防強化は完了※。
- ・上流部の塔の島地区では景観に配慮した改修を進め、2018年度に完了予定。

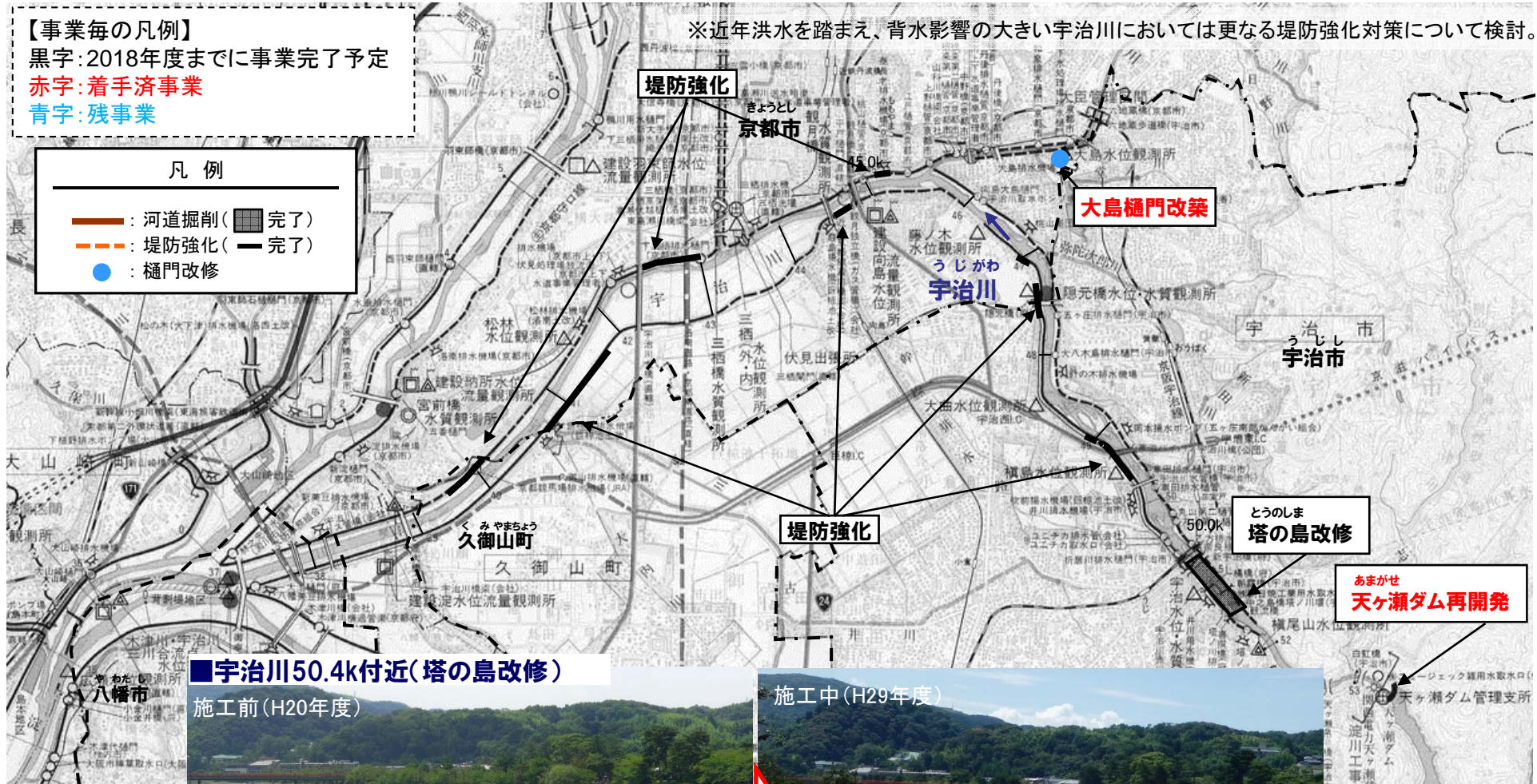
【事業毎の凡例】

黒字: 2018年度までに事業完了予定

赤字: 着手済事業

青字: 残事業

※近年洪水を踏まえ、背水影響の大きい宇治川においては更なる堤防強化対策について検討。



■宇治川50.4k付近(塔の島改修)

施工前(H20年度)



施工中(H29年度)

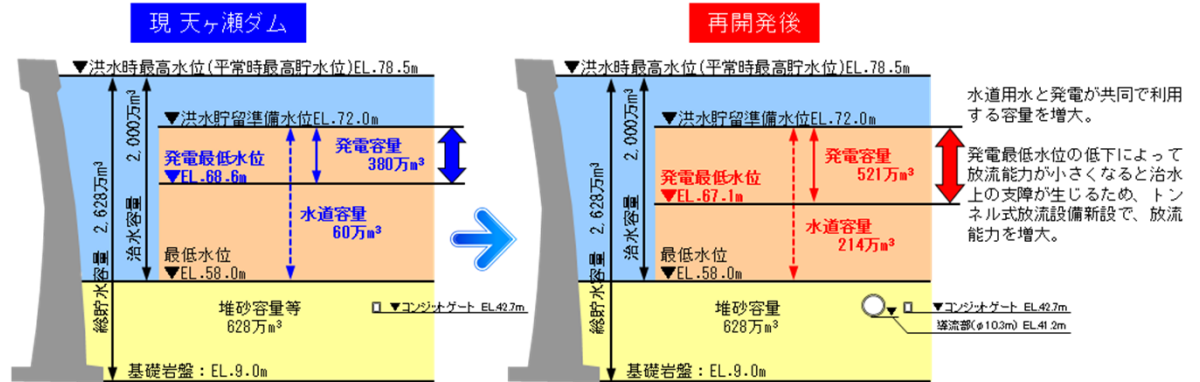


事業進捗状況(天ヶ瀬ダム再開発)

・2013年度から本体工事に着手し、約8割の事業が進捗。2021年度に完成予定。

■事業目的

- 【治水】 放流能力を増強し、ダムの治水容量をより効率的に活用することで、天ヶ瀬ダムの洪水調節機能を強化。
- 【利水】 1日あたり51,840m³の水道用水を新たに安定して供給。
- 【発電】 需要電力の多い洪水期にも110,000kWの電力を新たに供給。



■工事概要

トンネル式放流設備	
構造	内径 10.3m
計画放流量	600 m ³ /s (EL.72.0m)
延長	617 m

※再開発後の画像はイメージです

鳳凰湖、天ヶ瀬ダム、流入部、導流部、ゲート室部、天ヶ瀬発電所、派勢池部、吐口部、宇治川、(旧)白虹橋、白虹橋

再開発後 (イメージ)

■工事進捗状況写真(H30.12時点)



事業進捗状況(木津川下流)

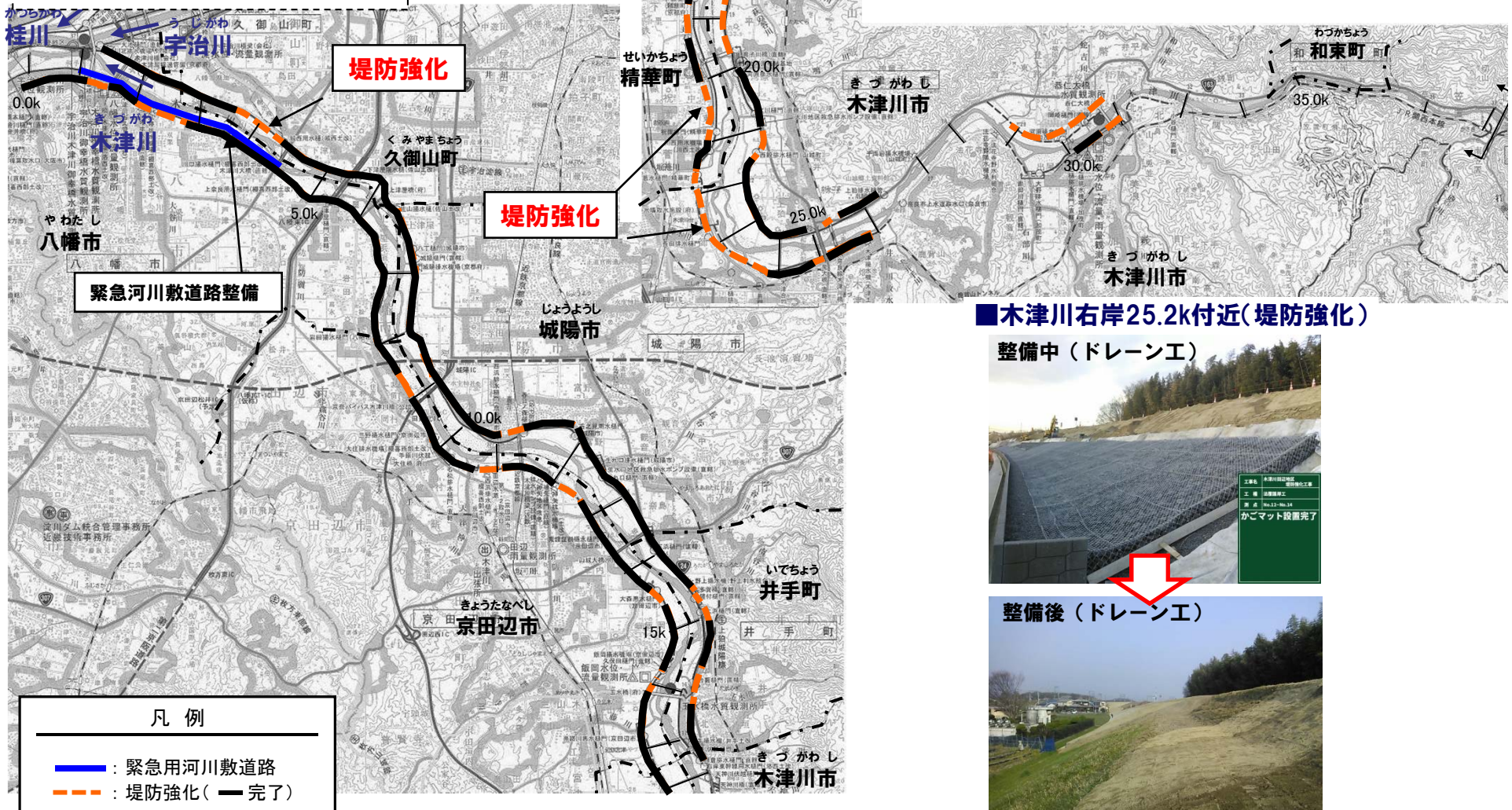
・木津川では、堤防強化を優先して実施し、約7割の区間で完了し、2020年度に全川完了予定。

【事業毎の凡例】

黒字:2018年度までに事業完了予定

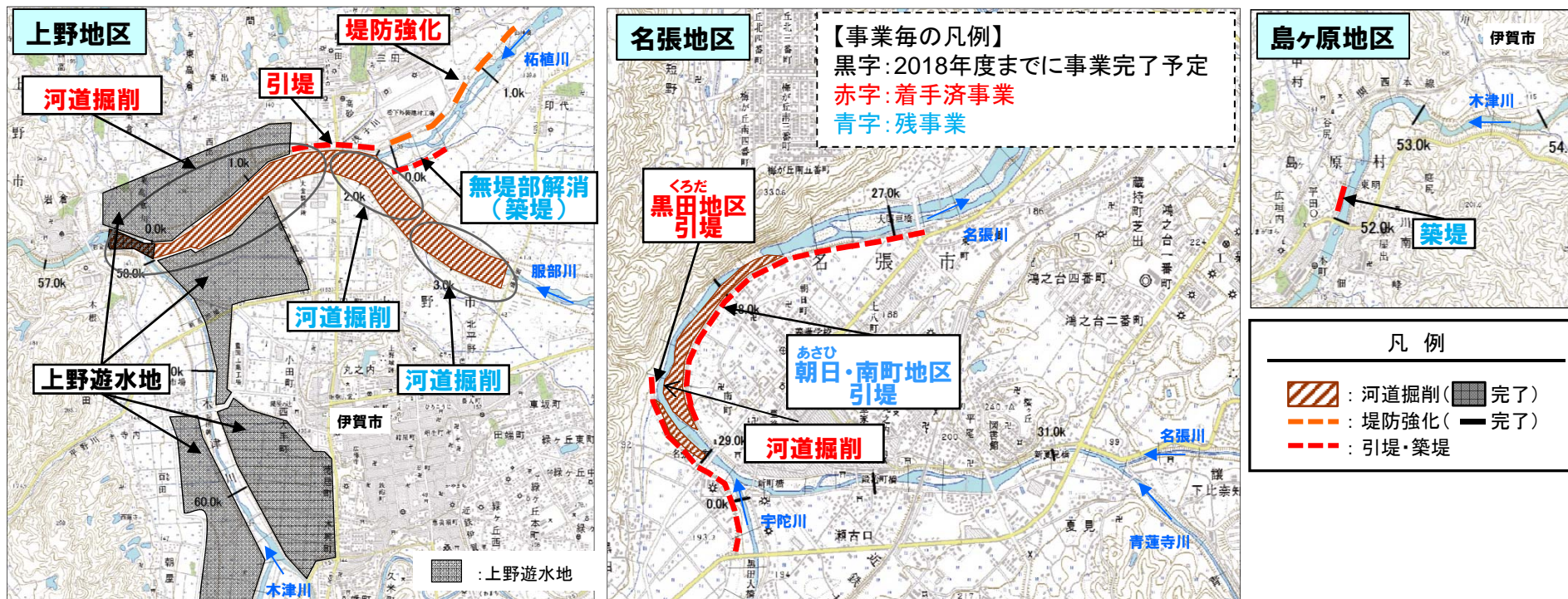
赤字:着手済事業

青字:残事業



事業進捗状況(木津川上流)

- ・木津川上流では、上野遊水地の整備が完了し、2015年度から運用を開始。
- ・名張川では、名張市内の治水安全度向上及び上流3ダム(青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダム)の調節効果を発揮させるため、黒田地区の引堤をかわまちづくり事業と併せて、2023年度に完了予定。



■木津川58.0k(上野遊水地)



■名張川28.0k(河道掘削)



事業進捗状況(川上ダム)

- ・2017年度から本体工事に着手し、約6割の事業が進捗。
- ・現在、ダム本体の基礎掘削を実施しており、2022年度に完成予定。

■事業目的

- 【治水】 当該ダムの建設される地点における計画高水流量850m³/sのうち780m³/sの洪水調節を行う。
- 【利水】 伊賀市の水道用水として最大 0.358m³/sの取水を供給。
- 【流水の正常な機能の維持】 前深瀬川及び木津川の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進。高山ダム、青蓮寺ダム、布目ダム及び比奈知ダムの堆砂除去のための代替補給。

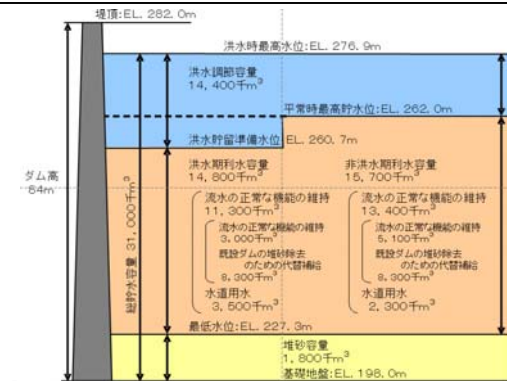
■工事概要

完成イメージ



【川上ダム堤体諸元】

- 型式：重力式コンクリートダム
- 堤高：84m(堤頂標高：EL.282.0m)
- 堤頂長：334m
- 湛水面積：1.04km²
- 総貯水容量：31,000千m³



(2018年11月末撮影)

■工事進捗状況写真



事業進捗状況(瀬田川・野洲川)

・瀬田川では、流下能力向上と大戸川への背水影響回避の掘削を実施し、2019年度に完了予定。

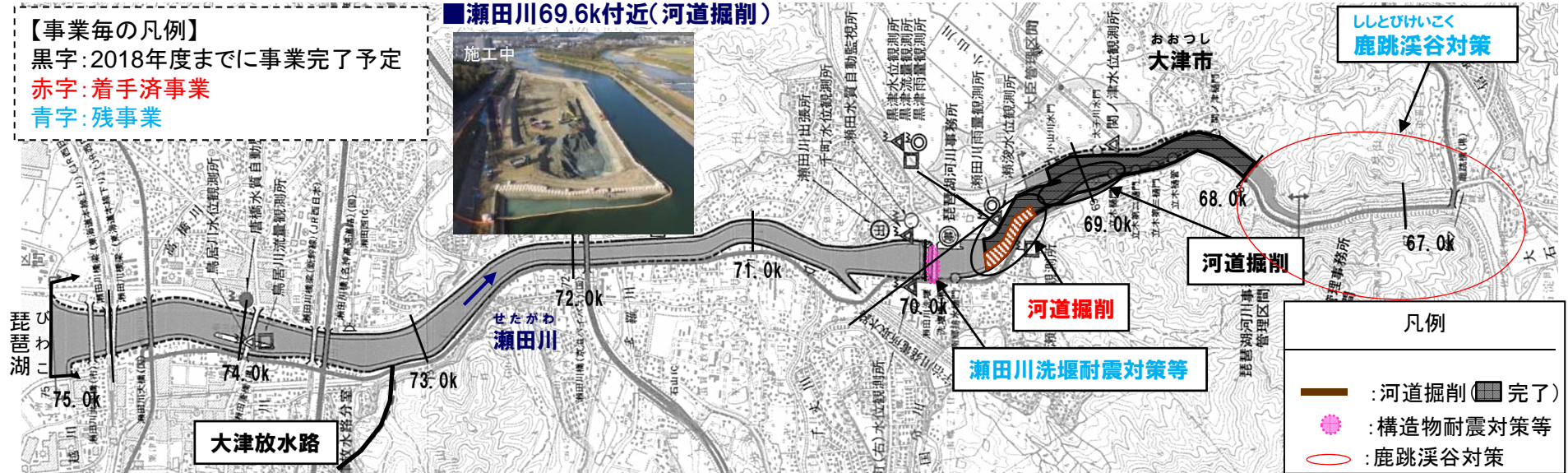
【事業毎の凡例】

黒字: 2018年度までに事業完了予定

赤字: 着手済事業

青字: 残事業

瀬田川69.6k付近(河道掘削)



・野洲川では、堤防強化を実施し、2020年度に全川完了予定。

凡例

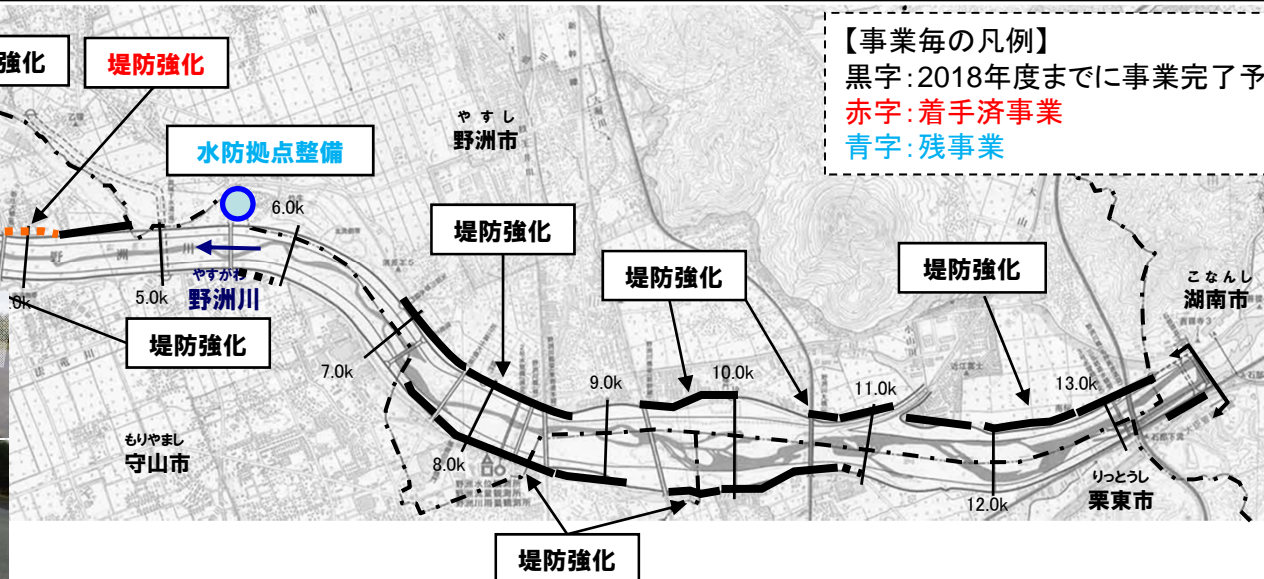
— : 堤防強化 (完了)

○ : 水防拠点整備

野洲川12.4k付近(堤防強化)

施工前(裏法対策)

施行後(裏法対策)



【事業毎の凡例】

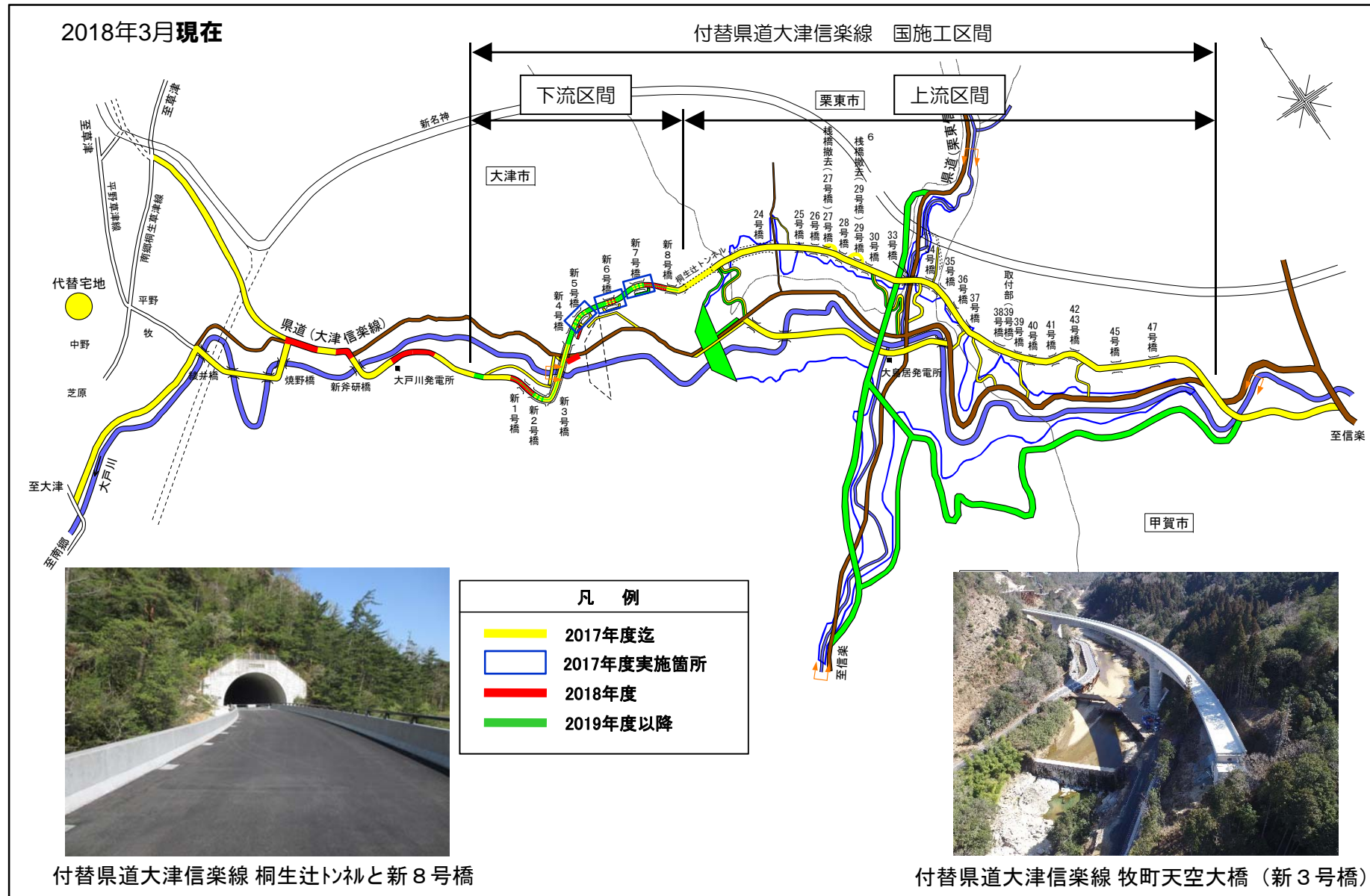
黒字: 2018年度までに事業完了予定

赤字: 着手済事業

青字: 残事業

事業進捗状況(大戸川ダム 付替道路)

・付替県道大津信楽線工事については、2021年度完成を目標に推進。



事業進捗状況(猪名川)

・猪名川では、床固改築や旧堰撤去を含む河道掘削を実施し、2023年度に完了予定。



事業進捗状況(桂川の段階整備)

・桂川は、2022年度までに約6割の河道掘削が完了予定。戦後最大洪水への対応にはさらなる河道掘削が必要。

凡例

掘削範囲: ←→

堰撤去: ○

I (~H25): 緑

II (緊特): 橙

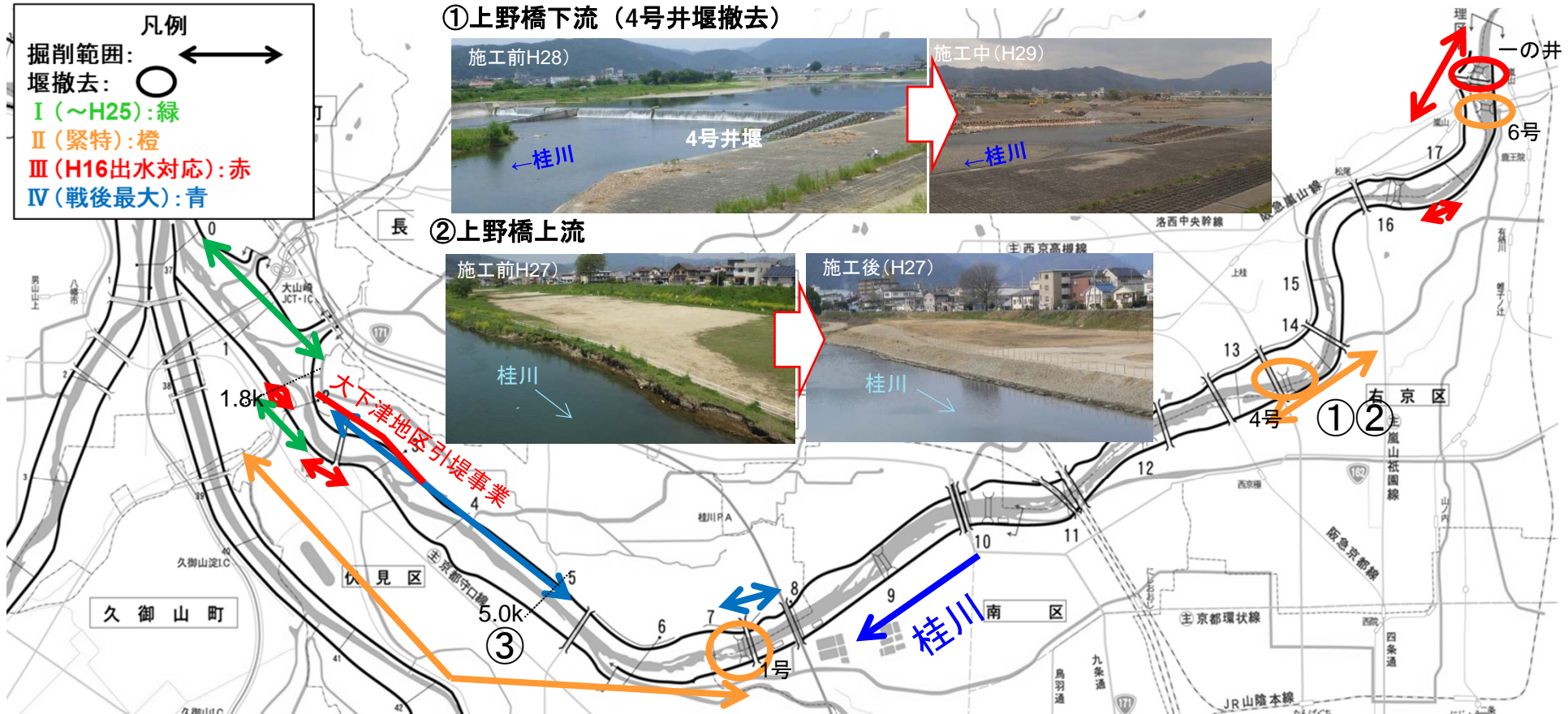
III (H16出水対応): 赤

IV (戦後最大): 青

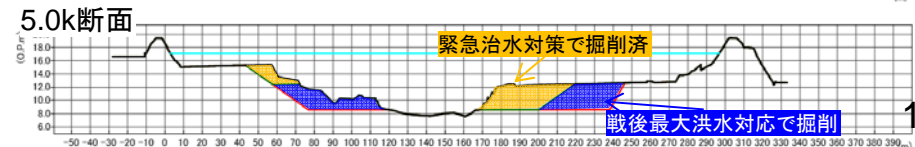
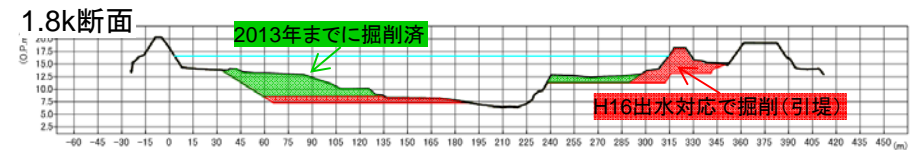
①上野橋下流 (4号井堰撤去)



②上野橋上流

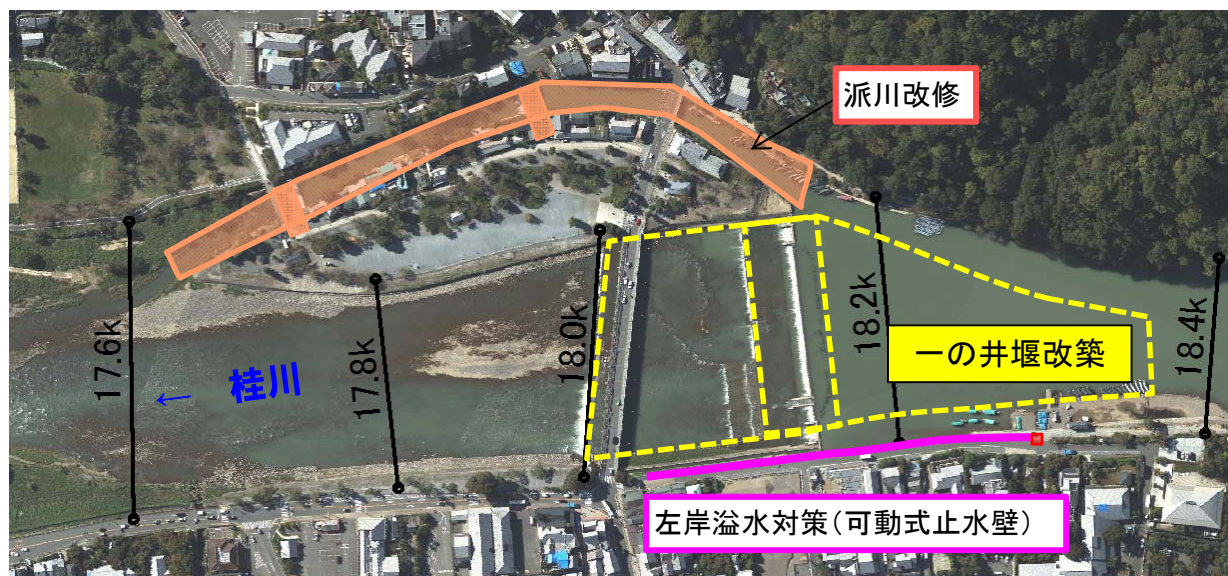


③羽束師橋下流

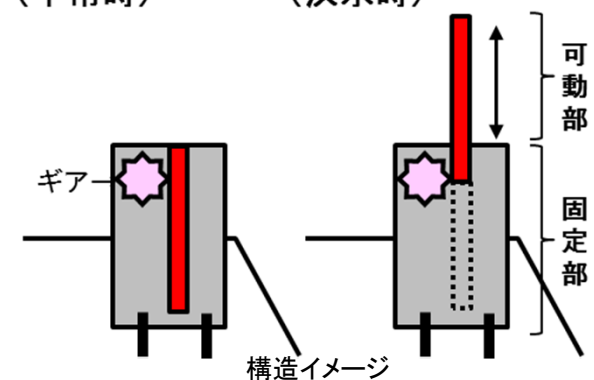


事業進捗状況(嵐山地区)

- ・嵐山は世界的な観光地であり、世界文化遺産に登録された天龍寺があるなど京都観光の要であり、四季を通じて2000万人/年を超える観光客で賑わう歴史的な景勝地。
- ・2018年12月には、「可動式止水壁による左岸溢水対策」「一の井堰改築」「派川改修」によるH16出水対応メニューについて、地元や関係機関との合意形成が諮られ、この3つの対策で整備を推進。



○左岸溢水対策
(自立式特殊堤+可動式止水壁)
第8回検討委員会(H30.12月)で合意
(平常時) (洪水時)



○一の井堰改築

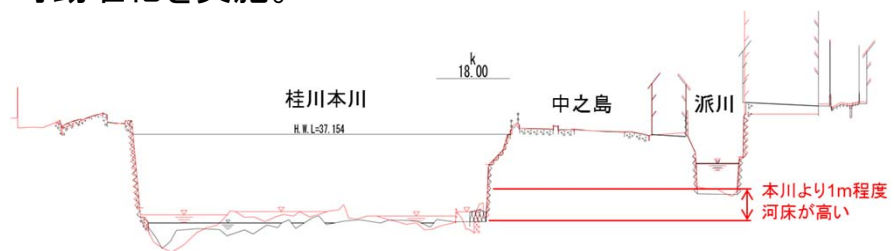
京都府・市を含む協議会を設立し、京都府・市・国・土地改良区により、改築に向けた議論を開始。



施設諸元 (京都府管理)
築造年次: 昭和26年
延長: 151.6m 堰高: 1.8m
取水量: かんがい期 6.92m³/s

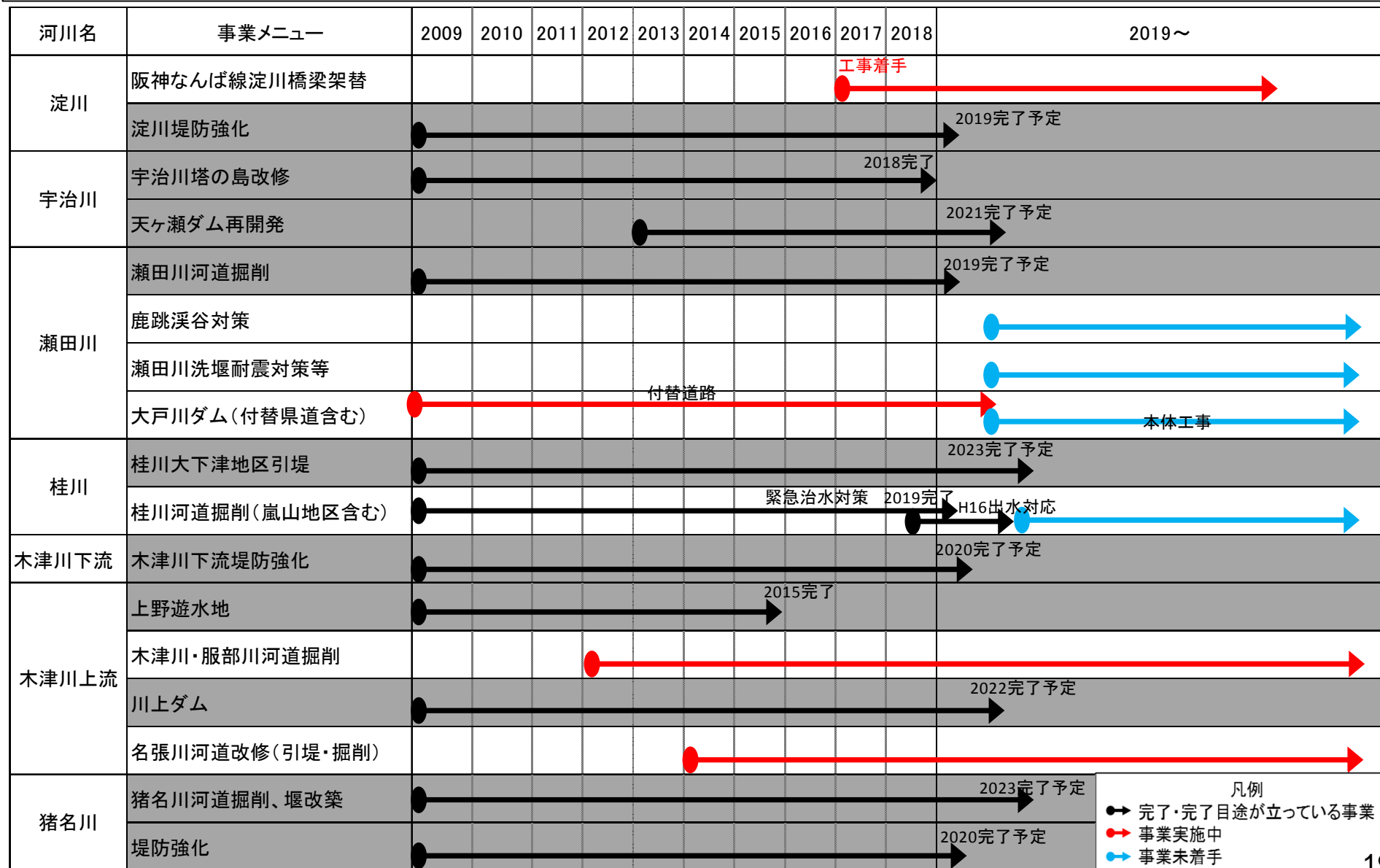
○派川改修

派川は河床が高く、2基の固定堰による堰上げが発生しているため、一の井堰改築に合わせて、河道掘削及び可動堰化を実施。



淀川水系の主な事業進捗状況

・計画策定から概ね10年が経過し、治水安全度の低い桂川の掘削のみならず、宇治川塔の島改修の完了や上野遊水地の運用開始、川上ダムの本体着手、阪神なんば線事業の着手と河川改修が進捗。



淀川水系における各河川の流下能力

淀川水系における各河川の流下能力

- ・河川整備計画策定から概ね10年が経過して、各河川において、河川改修が大幅に進捗。
- ・この結果、流域全体においても各河川においても流下能力が向上。

河川名	地点名	計画策定時の河川の流下能力	2018年度時点の河川の流下能力	完了目途が立っている事業完了時の流下能力	河川整備計画目標流量(河道配分流量)
淀川	枚方	10,500m ³ /s	10,500m ³ /s	10,500m ³ /s	10,700m ³ /s
宇治川	宇治	890m ³ /s	1,500m ³ /s 塔の島地区完成	1,500m ³ /s	1,500m ³ /s
桂川	羽束師	2,000m ³ /s	2,400m ³ /s 緊急治水対策完成	2,600m ³ /s H16出水対応河道完成	3,600m ³ /s
	嵐山	900m ³ /s	1,100m ³ /s 堆積土砂除去、6号井堰撤去	2,300m ³ /s H16出水対応河道完成	2,900m ³ /s
木津川	加茂	4,900m ³ /s	4,900m ³ /s	4,900m ³ /s	4,900m ³ /s
	島ヶ原	2,300m ³ /s	2,300m ³ /s	2,300m ³ /s	2,800m ³ /s
名張川	名張	1,100m ³ /s	1,200m ³ /s 樹木伐採、河道掘削	1,600m ³ /s 黒田地区引堤完成	1,900m ³ /s
猪名川	小戸	1,200m ³ /s	1,800m ³ /s 河道掘削	2,100m ³ /s 河道掘削完成	2,100m ³ /s

計画策定時から流下能力増

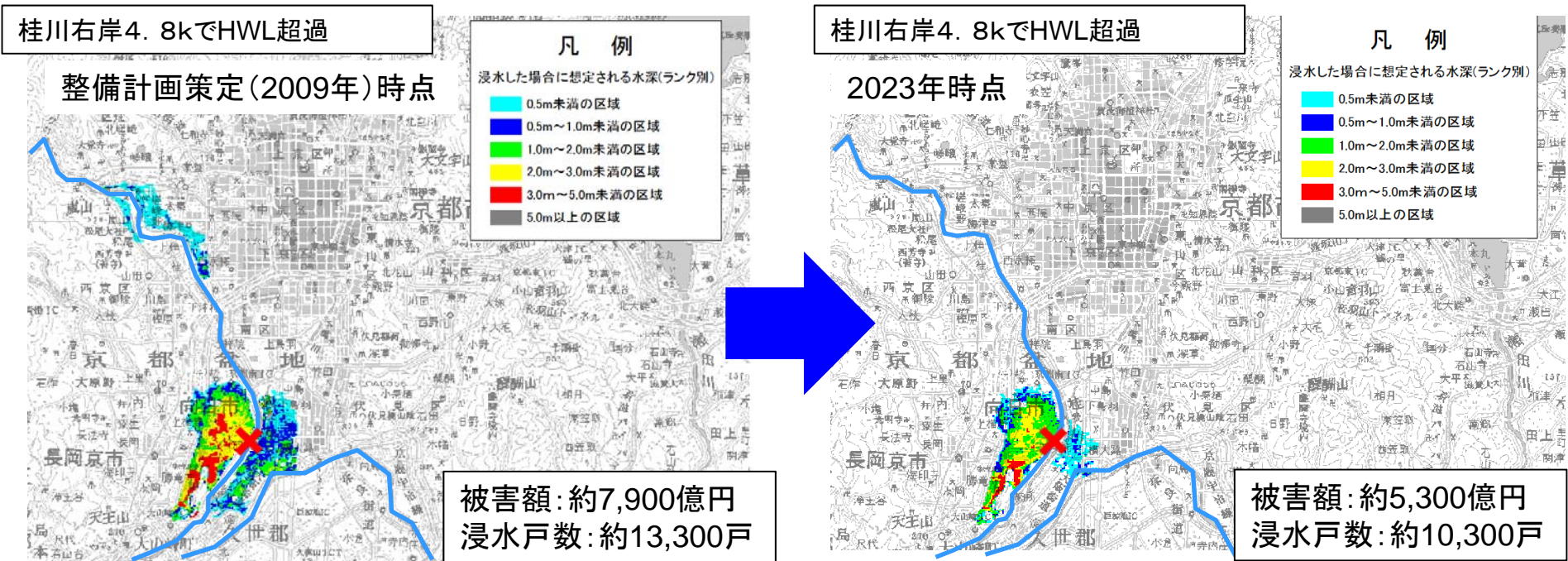
完了目途の立っている事業により目標を達成

事業進捗に伴う影響

事業進捗に伴う影響(桂川)

- ・ 2023年時点で、H16出水と同規模の洪水が発生した場合、桂川の浸水被害は解消できると推定。
- ・ ただし、河川整備計画の目標洪水(戦後最大洪水)が発生した場合、桂川の浸水被害は軽減されるものの解消されないため、引き続き河川改修が必要。

○戦後最大洪水発生時にHWLを超過すると破堤。



○2023年時点では、桂川はH16出水対応河道まで概ね完了し、これまでの河道掘削により、羽東師地点(5.0k)の河道内のピーク水位が約30cm低下し、浸水被害が減少すると試算。

※2023年時点では、関係者等との調整が必要な事業も完成したことを前提に試算。

事業進捗に伴う影響(淀川)

- ・淀川本川では、河川整備計画策定前において、計画規模洪水がHWL以下で流下する安全度となっているため、中上流の事業進捗においても、従前の安全度を低下させないことが必須。
- ・これまでの中上流部の河川改修と併せて、天ヶ瀬ダム再開発や川上ダムの整備が完成することで、淀川本川に対する中上流部の河川改修の「影響を緩和できる(HWL以下にできる)」ことを確認。

